

ご挨拶

五ヶ瀬でお茶を栽培製造している株式会社宮崎茶房の宮崎亮です。

五ヶ瀬は九州のちょうど真ん中に位置し、九州発祥の地といわれている土地です。

高千穂郷八十八社の一つである古戸野神社の菩提樹「厚福寺」の跡地が私の実家です。

神々に守られている土地。いろんな方からそう言っただけの場所で、先祖代々お茶を作り続けています。

残念ながら現在は茶農家の高齢化が進み、毎年放棄される茶畑が増え続けています。山茶が自生するこの恵まれた茶畑を残すにはどうしたらいいかを考え、今回このプロジェクトを立ち上げました。

五ヶ瀬に残る**種から育った在来茶**は、お茶が本来持つパワーに満ちています。

この**実生在来茶を広めることで、これからの担い手を育てることにつなげたい**と考えています。

また、お茶がもつ抗酸化力、カテキンの効能を、今だからこそ感じていただきたいと思っています。

どうぞ日本古来の在来茶を知っていただくきっかけとなるよう、ご協力をお願いいたします。

五ヶ瀬を含む高千穂郷は世界農業遺産に認定されています

世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage Systems（GIAHS）：ジアス）は、2002 年食料の安定確保を目指す国際組織「国際連合食糧農業機関」（FAO、本部：イタリア・ローマ）によって開始されたプロジェクト。

近代化の中で失われつつあるその土地の環境を生かした伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などを地域システム」として一体的に維持保全し、次世代へ継承していくことを目的にしている。

【五ヶ瀬だからこそのお茶】を届けたい

古事記のお話ですが、神武天皇には五瀬命（いつつせのみこと）という兄がいます。もしかしたら五ヶ瀬の名前の由来はここからきているのかもしれませんが。

神話が、いまでも日常の中にある土地が五ヶ瀬です。

全国的に有名な高千穂とは違って、ここには観光客はほとんど訪れません。そのため、昔ながらの空気が流れ、由緒ある神社も古と同じようにひっそりと存在をしています。

このような場所だからか、私の周りには不思議な力を持つ方々が多くいらっしゃいます。

「この地で育つ茶葉にはいい気が漲っている。このお茶をたくさんの方に広め、心身を癒すことがあなたの使命だ」と言われたことがあります。

残念ながら私には見えないものを見通す力はありませんが、この言葉はすーっと受け入れることができました。

五ヶ瀬では、古木や山、水、川に神を感じます。**昔から続く自然崇拝がそのまま残っています。**

この土地だからこそできるお茶を多くの方に飲んでいただくために、サブスクリプションという形態での流通を目指してまいります。

自然の恵に感謝を込めて、「神乃茶」というブランド名を付けさせていただきました。

自生の山茶がある土地

標高 500～800m の山々が連なる五ヶ瀬は、宮崎県では珍しく冬は積雪もある寒冷な土地です。害虫被害も少ない土地のため、**無農薬栽培が 30 年前から**行われています。

山の斜面には茶畑が段々に広がり、茶畑を外れて山に入れば至る所に**山茶が自生しています**。遥か昔から山茶に適した土地でしたが、明治に入り本格的に茶業が盛んになります。

一般的に茶葉の栽培には温暖な土地がいいとされていますが、五ヶ瀬の自然がもたらす冷涼な気候が、香り高い茶葉を育みます。

高地の茶葉ならではの香りを生かす【釜炒り製】

五ヶ瀬は、**今では珍しい釜炒り茶の生産地**です。中国では一般的な製法ですが、日本では 18 世紀以降に蒸し製が主流となりました。

茶葉の発酵を止めるために新芽を直火の鉄釜で炒り、釜で揉みながら乾燥させていきます。300 度に熱した釜で茶葉を炒るのは職人の手作業。茶葉に均一に火を通すため、手で茶葉をかき混ぜる作業は熱さとの戦いです。いまでは一部機械化していますが、やはり職人がいてこそその作業は変わりありません。

このように丁寧に炒られた茶葉は、「**釜香(かまか・かまこう)**」といわれる**独特の香り**を持ちます。

この香りこそが、煎茶にはない釜炒り茶の特徴なのです。

日本古来の実生在来茶

一般的な茶樹は挿し木で育てられます。優良な茶の木の枝を取り、挿し木で増やすことで同じ性質の茶葉ができます。ヤブキタ、オクミドリなどの品種名がつくものは挿し木で育てたものです。

香りに特徴を出しやすい利点があります。ただこれはいわゆるクローン。

種子（実生）から育った茶樹は、それぞれが個性を持つために性質にはばらつきがでます。

同じ両親から生まれたのに、外見や性格が違う兄弟のよう。茶畑を見ても、色や形、育成具合がまばらです。

二つの茶樹の大きな違いは「**根の長さ**」。

挿し木の根は横に広がります。それに比べ実生はまっすぐ地中に根を伸ばします。

土の上に育つ茶樹よりも長い根は 3～5m にもなります。地中のミネラル成分を吸収する能力に長け、地上の葉にはフィトケミカルが豊富に含まれるようになります。



山に自生する茶の木

このように育った実生は、植物本来が持つパワーを宿しています。

中国雲南省には樹齢 100～1000 年の茶樹が数多く残っていますが、ほとんどが実生在来種。実生の茶樹生命力が強く、数百年も茶葉をつける言われています。地中に豊富に含まれるミネラルが、その生命力を支えているのです。

唐の時代に陸羽がまとめたお茶専門書「茶経」に書かれている効能は、こういった実生在来種のものではないかと思っています。

五ヶ瀬は、4 億 3 千年前の海底が隆起してできた土地。昔海だった山中からは、ミネラル豊かな水が湧き出しています。肥沃な大地とミネラル豊富な水。この恵まれた環境で育つ茶葉こそが、五ヶ瀬茶の最大の特徴です。

自然と共存することに意識が向けられる昨今。

私は、それをお茶で感じていただきたいのです。

【宮崎茶房のこれまでの実績】

有機 JAS 認定／天皇杯受賞／農林水産大臣賞受賞／英国 GreatTasteAwards2013 プラチナ賞受賞・日本茶大賞特別賞受賞

2019 年開催 G20 大阪サミットの夕食会にて、宮崎茶房の釜炒り茶をワインボトルに入れた「炒り香」が提供されました

みなさまへのメッセージ

耕作放棄地が増え続ける中で、なんとかこの土地のお茶畑を守っていかなくてはと思っています。

その対策として、五ヶ瀬だからこそできる無農薬の実生在来茶を皆様に直接お届けするサブスクリプションを昨年計画していました。

そんな中、予想もしていなかった社会変化が起こり、日本全土が混乱している今、私に何ができるのかを考えました。

私は、植物が本来持つ力、お茶に宿るパワーを信じています。地中深くまで根を張り、大地のミネラルをたっぷりと吸収した茶葉には、フィトケミカルを強く持つと実感しています。

日々緊張が高まり、ストレスを抱えている方にこのお茶を届けたい。少しでも心身を癒してもらえたらと。

また、都会での生活に疲れちょっと一服したくなった時には、気軽に一週間だけでもこの茶畑にきていただき、茶摘みや茶畑作業を通して自然のパワーを充電してもらえたらとも考えています。

充電できたら、また元の場所に戻っていく。

元々、私が住む桑野内には番所があり、肥後から高千穂へ抜ける人たちが一服する場所であったといいます。「よくう」という地名がここにはありますが、これは一休みするという意味の方言。

心身をお茶で癒す「よくう」を広めるプロジェクトにご協力をお願いいたします！